

◆~~~~ リトアニア国立劇場で大成功をおさめた 感動の名作 ~~~◆

6000人の命を救った外交官の人生を忠実に再現したオペラ



脚本家が語る **杉原千畝物語**

**オペラ「人道の桜」を未来へ!**

6000人の命を救った杉原千畝  
助けられたユタヤ人の子孫は  
現在数万人になり、今では世界中から  
千畝に感謝の意が表明されている



(杉原千畝 手記より)  
私のしたことは  
外交官としては

間違ったことだったのかもしれない  
しかし私には、頼ってきた何千もの人々を  
見殺しにするわけにはできなかった。  
大したことをしたわけではない。  
当然のことをしただけです。

なぜ? 今こそ<杉原千畝>なのか?  
千畝の妻・幸子夫人の手記をもとに  
彼の人生をそのまま 忠実に再現した  
オペラ「人道の桜」。その脚本を執筆  
した 新南田ゆりが、ゼロからのスタート  
をし、世界初演、早稲田大隈講堂  
日本初演を 成功させるに至った エピ  
ソードや、この作品への思いを語りな  
がら、歌い綴ります。今後の公演も  
多方面で 開催される事が決定! 現  
代社会における この作品の 意味と、  
未来へ向かうこの感動作品の魅力を  
お伝え致します。



Yuri Shinada

脚本家・ソプラノ歌手

新南田ゆり

桐朋学園大学研究科修了後、イタリア  
St. Margherita 声楽アカデミー修了。  
英国王立音楽院演奏ディプロマ取得。  
フランス音楽コンクール第1位受賞。  
杉原千畝オペラ「人道の桜」他、ギリシャ  
アテネオリンピック記念オペラ「ラビュリント  
ス」など脚本家としても活躍。NHKテレ  
ビ「歴史秘話ヒストリア」等、これまでに  
180本を超えるテレビ番組・CMを歌  
う。12月28日 国際フォーラムAホ  
ールでの梶浦由記「コンポーザーサミット」にも  
出演が決まっている。

2018年 **10月27日** (土) 15:00~16:30

【講 師】 新南田ゆり (しなだゆり) 様

【場 所】 にいざほっとぷらざ 4 F 多目的室  
(東武東上線志木駅南口 直結)

【参加費】 無料

【主 催】 早稲田大学 新座稲門会

<連絡先> 伊藤雅夫 Tel: 090-4430-1029  
e-mail: [itohmasao@hotmail.com](mailto:itohmasao@hotmail.com)



# 歴史的史実をそのまま＜再現＞したオペラ！

2015年5月にリニア  
国立劇場にて世界初演



＜日本語上演 + リニア語字幕＞での  
世界初演(オーケストラ伴奏)は、会場全体が  
スタンディングオベーションとなりました！

「忘れもしない1940年7月18日の早朝の事であった。6時少し前、表通りに面した領事公邸の寢室の窓際が、突然人だかりの喧しい話声で騒がしくなり、意味の分からぬめき声は、人だかりの人数が増えるためか、次第に高く激しくなっていく……私は急ぎカーテンの端の隙間から外を伺った。何と、これらは大部分がヨレヨレの服装をした老若男女で、色々の人相の人が、ざっと100人も公邸の鉄柵に寄りかかって、こちらに向かって何かを訴えている光景が目映った。」  
(千畝の手記より)



2015年 7月 千畝の母校  
早稲田大学大隈記念講堂  
＜日本初演(ピアノ伴奏)＞  
2015年 12月 品川きゅりあん公演  
＜日本初演(オーケストラ伴奏)＞  
2017年 3月 新宿文化センター  
＜オーケストラ版＞  
2018年 1月 岐阜県主催公演  
＜岐阜初演＞



(千畝の手記より)

「私は考え込んでしまった。  
元々彼らは私にとって、何のゆかりもない赤の他人に過ぎない。  
いっそのことビザ発給拒否を5人の代表だけに宣言し、領事館オフィスのドアを封印しホテルにでも引き上げようと思えば、物理的には実行できる。しかも私は本省に対し、従順であるとして褒められこそすれと考えた。  
私は考え込んだ。  
仮に、本件当事者が私ではなく、他の誰かであったならば、百人が百人＜拒否＞の無難な道を選んだに違いない。なぜか？  
文官服務規程というような条文があって、その何条かに縛られて＜昇進停止＞とか＜減首＝解雇＞が恐ろしいからである。私はこの回訓を受けた日、一晩中考えた。  
家族以外の相談相手は一人も手近にいない。とにかく、果たして、残虐、無責任、我武者羅の職業軍人集団の、対ナチ協調に迎合することによって、全世界に隠然たる勢力を有するユダヤ民族から、永遠の恨みを買ってまで、旅行書類の不備とか、公安上の支障云々を口実に、ビザを拒否しても構わないとでもいうのか？  
それが果たして国益に叶うことかどうか？  
苦慮の挙句、私はついに 人道主義、博愛精神第一という結論を得ました。  
そして私は、何も恐れることなく職を賭して、忠実にこれを実行し終えたと、今も確信している。」



千畝が救ったユダヤ人は6,000人。  
犠牲となったユダヤ人は6,000,000人。  
千畝が救えたのは1,000人のうちの、本当に幸運なたった一人ということだ。  
ナチスドイツは政権を取ると、「ユダヤ人を迫害するための法律」を作り、第2次世界大戦開始後はさらにエスカレートしていった。  
「ラジオ所有禁止」「公務からの追放」  
「医師・弁護士免許の取り消し」  
「ドイツ人との結婚の禁止」「公共施設の利用禁止」  
「外出制限（黄色いダビデの星をつけた上着を着る）」  
ユダヤ教会や店は壊され、略奪され、そしてユダヤ人は専用居住区（ゲットー）に移され、劣悪な環境で伝染病が蔓延。飢餓と病で多くのユダヤ人が命を落とした。さらに1942年に開かれたヴァンゼー会議でナチスはユダヤ人の大量虐殺を決定。毎日何千人というユダヤ人がゲットーからヨーロッパ中に建てられた収容所へトラックや列車で輸送され殺されていった。  
そのもっとも大きな収容所がアウシュビッツなのである。

正義と真心により  
多くの人を  
窮地から救った  
杉原千畝の人生と歴史



千畝が6,000人のビザを発給した執務室。現在は「杉原千畝記念館」として公開されている。当時のままの部屋の様子が再現され、千畝が書いたビザや、ペンなどは、オペラの中でも使われている。

